

りそな Asia時事フラッシュ
インドネシア中銀 通貨防衛の利上げ

◆ インドネシア中銀が予想外の利上げを実施

▶ 10月19日のインドネシア中銀会合では0.25%の利上げを実施し、政策金利を6.00%に引き上げた。利上げは9会合ぶり。以下は声明文の主な内容。

利上げの理由 ①高まるグローバル不確実性に対してルピアの安定性を強化する②予防的に輸入インフレを軽減させ、中銀のインフレ目標レンジである2023年の3%±1%、2024年の2.5%±1%のインフレ目標レンジを実現する

経済について 世界経済は不確実性の上昇に伴い減速するが、インドネシア国内経済は堅調に推移し、海外経済の影響に耐性が強い。輸出は鈍化しているが、個人消費、投資活動は良好。2023年の経済成長率は4.5%～5.3%のレンジに着地する見込み

物価について インフレはコントロールされ、目標レンジ内にある。食料価格とエネルギー価格の上昇、ルピアの減価による輸入インフレを引き続きモニタリングしていく

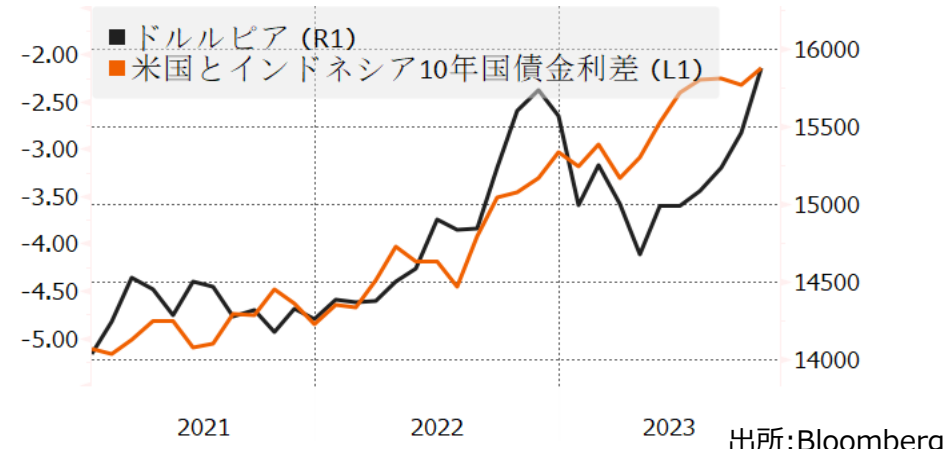
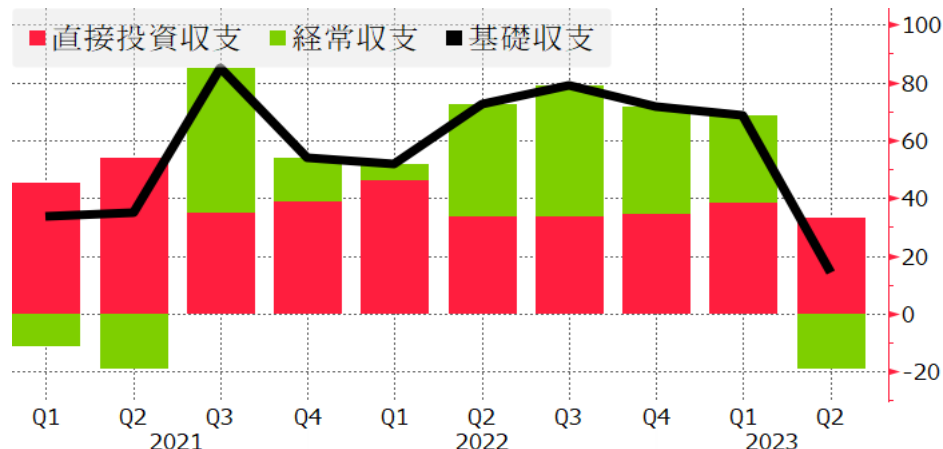
為替について ドル高はルピアを含めて広範囲の通貨に対して減価圧力を引き起こした。年初から多くの通貨は大幅な対ドルでの減価が見られたが、ルピアの減価幅は限定的で、相対的な底堅さを見せた。ルピアの安定性政策を強化するために、「インドネシア中銀ルピア債(SRBI)」を最適化し、「インドネシア中銀外貨債(SVBI)」と「インドネシア中銀外貨イスラム債(SUVBI)」を発行し、資金流入を促す。

◆ 通貨防衛が重点

▶ インフレは目標レンジで推移しており、今後の上振れリスクもさほど大きくない中、インドネシア中銀は通貨防衛のために今回の利上げを実施したと言える。ルピアの安定性維持という政策目標を持つ中央銀行としては言うまでもない。今までインドネシアを含む新興国国債は高金利が魅力的だったが、米国長期金利の急騰の影響を受け、魅力度が低下し、債券が売られ、通貨の対ドルでの減価が生じている。インドネシア中銀は12月のFRB利上げを予想しているため、通貨防衛のための追従利上げの可能性が高まった。

◆ 当面のルピア展望

▶ 一国の国際収支の健全性を示す経常収支と直接投資収支の合計である基礎収支をみると(左下)、インドネシアは輸出の低迷で経常収支は赤字であるが、旺盛な直接投資がそれをカバーし、基礎収支の黒字を維持できている。最大の輸出先である中国、米国の製造業景況の底打ち感もあり、今後の輸出の改善から総じて健全な基礎収支が見込まれる。しかし、米国の堅調な景気や国債需給悪化などによる米国長期金利の上昇が継続しやすいため、右下の国債金利差主導でドルルピアは上昇しやすい。対円に関しては円買い介入への警戒や株安によるリスクセンチメントから円がやや優勢になる可能性が高いとみる。



出所: Bloomberg